

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)	◎	*	*	*
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・5月のゴールデンウィークを中心に各週末とも観光客がかなり増えているようにみられる。飲食店を中心にかなりにぎわっており、地域の宴会に関しても徐々に新型コロナウイルス感染症発生前に戻っているようにみられる。
	○	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・店頭売上は低迷しているが、外商売上は前年同月比プラスで好調である。店頭売上は雑誌やコミックの売上が良くない。
	○	美容室（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークに客がかなり動いたのが良かった。
	□	商店街（代表者）	競争相手の様子	・円安や燃料価格高騰の影響で経費が上昇し続け、厳しい状況が続いている。今年度に入り販売単価を多少値上げしたが、経費の上昇が利益を圧迫し、売上は僅かに増加したが利益は減少傾向となった。先日、同業者の集まりがあり話す機会があったが、皆一様に厳しい状況が続いていると話していた。
	□	商店街（常務理事）	販売量の動き	・商品価格だけでなく、サービス価格を含めた物価高騰が全ての分野で広がり、今後も終わりが見えないことから、消費者は生活防衛に走らざるを得ない。消費の現場では、少しでも支出を抑えようとする動きが顕著である。
	□	一般小売店〔生花〕（経営者）	お客様の様子	・母の日商品の単価が上がっていたが、販売量は例年と変わらなかった。一方で、その他の商品は少しずつ節約傾向にある。必要なもののみ購入している様子。
	□	スーパー（店長）	お客様の様子	・ゴールデンウィークの売上が前年割れとなり、景気が良くなる兆しが見られない。
	□	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・商品単価の上昇は続いているが、来客数の伸びが鈍化している。少しでも単価の低い店舗へ移行しているとみられる。
	□	コンビニ（店長）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの売上増加や来客数増加は期待したほどではなく、前年比やや減少傾向で推移した。依然として購買意欲の低さがみられた。
	□	コンビニ（総務）	来客数の動き	・商品価格の上昇が一巡し、客単価は落ち着いている。ゴールデンウィーク期間中の売上は前年比で良かったものの、その後、来客数が減少し前年割れが顕著になっている。
	□	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・5月は比較的良い月であるが、今年は日々の数字に大きな変化はなかった。しかし、前年と比べて休みが1日少なかったため、その分が落ち込み微減となった。
	□	家電量販店（副店長）	来客数の動き	・5月前半戦、特にゴールデンウィーク期間中は行楽や観光等により来客数が前年を下回ってしまったが、購入単価が3ポイント上がっているため、来客数の不足をカバーできている。
	□	自動車販売店（役員）	来客数の動き	・新型車発表もあり来客数は増加傾向である。
	□	乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・人気車種は受注停止が続いている。
	□	乗用車販売店（役員）	お客様の様子	・3か月前と比べて客の購買意欲は変わらない。
	□	都市型ホテル（経営者）	お客様の様子	・現在はさほど変わらないと考えるが、今後の光熱費の値上げや円安影響によりやや悪くなるとみられる。
	□	観光遊園地（主幹）	来客数の動き	・来場者数が横ばいである。
	□	競艇場（マネージャー）	販売量の動き	・現状、3か月前と変わらない売上基調である。しかし、買い控えの風潮もあり少し鈍化がみられる。
□	美容室（経営者）	お客様の様子	・このところ常連客がほとんどであり、安定はしているがよくもならない。	

	□	設計事務所（所長）	それ以外	・各社の決算が終わり、賃上げを検討しているようだが、5%までの賃上げは難しく大幅な賃上げはできないという話が多い。
	▲	商店街（代表者）	それ以外	・株式市場の活性化や円安による外国債券の値上がりで、しばらく可処分所得の増加により個人消費が活気づいていた。しかし、極端な為替変動によりデフレからインフレに状況が転換した。我が国もゼロ金利をこれ以上続けることが難しい時代になってきた。
	▲	一般小売店〔文具店〕（経営者）	来客数の動き	・前年と比べて今期は取引先からの受注量が減少している。また、取引先からは、夏に向けて商品値上げの予定に関する問い合わせがよくある。
	▲	一般小売店〔酒〕（経営者）	お客様の様子	・商品の値上げが続き、買い控えの傾向である。
	▲	スーパー（店長）	来客数の動き	・競合店の販売促進政策の影響を受け、来客数の減少傾向が続いている。
	▲	スーパー（統括担当）	来客数の動き	・来客数が減少するなかで、特にディスカウント店やドラッグストア等といった競合店舗の出店が増えている。各業種がそれぞれに厳しい経営状況になっているようである。
	▲	スーパー（財務担当）	来客数の動き	・今年に入って来客数の減少が続いている。
	▲	コンビニ（店長）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク終了後、来店客が減少した。
	▲	コンビニ（商品担当）	単価の動き	・円安の影響で輸入品である原材料が高騰している。地方によってはインバウンド需要もなく、物価高騰の影響をもろに受けている。
	▲	家電量販店（店員）	販売量の動き	・価格上昇基調が続くなか、必要な物のみを購入する傾向が強くなっており、ついで買いが減少している。
	▲	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・5月の連休明け以降、予約の伸びが鈍くなっている。物価高の影響があるのではないかとみられる。
	×	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・インバウンドの客相手の業種以外では、現在、街の中小企業では物価高の影響もあり、来客数や販売量の増加はみられず、景気もあまり良くならないのではないかと考えている。
	×	衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・今月は前年比10%以上の大幅な減収になっている。商品単価の上昇により単品での購入が増加し、来客数も減少している。
	×	その他小売〔ショッピングセンター〕（総務部担当部長）	販売量の動き	・各月の前年比をみると、5月に入って販売量の落ち込みが大きい。特に5月はゴールデンウィーク期間を除外しても低調に推移しており、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行による特需の反動があるとはいえ、各種商品の値上げに伴い客の消費マインドが冷え込んでいると考えている。
	×	一般レストラン（経営者）	単価の動き	・平日には、サービス品しか注文しない客が目立つようになった。
企業 動向 関連 (四国)	◎	食料品製造業（商品統括）	競争相手の様子	・得意分野に集中し、商品をCMで消費者に提示できているメーカーは、利益確保及び販売量の安定化が実現できている。
	○	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・4月の繁忙期から5月も全国的に受注が旺盛で、特に海外からの観光客でにぎわう地域の小売店は盛況のようである。ただし、食品など身の回り品の値上がりの影響もあり、消費者は高価格のものを敬遠気味で、低価格のものが中心に売れているとみられる。
	□	農林水産業（職員）	受注価格や販売価格の動き	・青果物の卸売価格は、天候不順の影響が大きく、品目によって収穫期の早期化や遅れが顕著である。また、果菜類は全般に作況が悪く、入荷減の影響で高単価で推移した。依然として、量販店の販売方針や消費者の購買行動に変化はみられず、残念ながら消費に力強さはない。
	□	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・受注が回復せず、低調に推移している。回復の兆しがみえず、さらに運賃価格の上昇と電気料金のアップが業績を悪化させている。価格改定の交渉も住宅業界自体が低調な推移のため、十分な価格転嫁ができていない。

	□	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・再生可能エネルギー関連の事業を行っているが、いろいろな影響で物が積極的に売れないという課題がある。たとえ大変役に立つ物、また適正価格だとされる物であっても、非常に社会が厳しい状況にあるとみている。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ここ1～2か月は、官民の工事共に目標はあるが競争が厳しく、なかなか受注ができない。
	□	輸送業（経営者）	取引先の様子	・よく分からない。
	□	通信会社（総務担当）	それ以外	・ボランティア活動や地域のイベントといった社外イベントへの参加者数は前年よりは増加しており、人の流れも増えているとみられる。一方で、直近では余り変動がないように見受けられる。
	□	金融業（副支店長）	取引先の様子	・売上や利益、受注状況等といった取引先の業績に大幅な変動はない。ただし、金利や為替相場、燃料価格等の動向においては注視が必要である。
	□	税理士事務所	取引先の様子	・前年と比べて利益に大きな変動がみられない。
	▲	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・造船関連以外の受注状況が低調で、受注残が1か月分の生産・出荷量を下回る水準である。
	×	—	—	—
雇用 関連 (四国)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（役員）	周辺企業の様子	・物価高騰の影響により消費コストを抑える傾向や地元の近隣公共施設への利用が増加している。その一方で、円安の影響により海外からの利用者は前年と比べて増加傾向にある。
	□	職業安定所（求人開発）	求職者数の動き	・4月は、年度末の退職者が雇用保険受給手続のため来所したため、新規求職者数が増えたが、5月に入ってから、減ってはいないものの少し落ち着いた様子であり、結果として3か月前とは余り変わらないとみられる。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・最近の新卒者の内定率、就職率が高い状況が続いている。
	▲	人材派遣会社（総務部長）	求職者数の動き	・人手不足のため思うようには売上を確保できない。
	▲	求人情報誌（営業）	採用者数の動き	・県内中小企業においては、業種を問わず人手不足の状況が続いている。新卒採用に関して2025年卒学生の採用活動がピークを越えたが、充足している企業は少なく前年に引き続き苦戦しており、新卒の採用難が数年続いている。中途市場での流動性も低く、企業は人手不足に疲弊している状況である。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・民間企業のマス媒体への広告はますます厳しい状況となっており、コロナ禍明け後も微減を続けている。
	×	—	—	—